

福井県における郷土研究・郷土誌の動向

令和五年度分

本会事務局 福井県立図書館郷土資料グループ編

はじめに

令和五年度は、五月に新型コロナウイルス感染症が五類感染症に移行されたことなどにより、各文化施設は概ねコロナ前の状態に戻った。令和五年六月に坂井市龍翔博物館（旧みくに龍翔館）が、七月に福井県立恐竜博物館がリニューアルオープンし、また、令和六年三月の北陸新幹線福井・敦賀開業を記念し、多くの施設が関連イベントを実施した。

福井県郷土誌懇談会は、ブックレット『越前・若狭 武将たちの戦国』を岩田書院より刊行し、編集に携わった学芸員による記念トークイベントを県立図書館と共に開催した。

以下、令和五年度に刊行された主な出版物を紹介し、県内郷土研究・郷土誌の動向とする。なお敬称は略した。

一 歴史・地域史・史跡調査報告書

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館『戦国大名朝倉氏 武威の煌めき』は、源氏物語と戦国武将をテーマに開催された特別展の図録。奥山秀範『写真が語る福井市の一〇〇年』（いき出版）は、福井市の明治時代から現在までに撮影された写真六〇〇枚を内容によって分類し解説を加えた資料。橋本昭三『白木の里三』（敦賀市）は、敦賀市白木地区在住者による地誌の続刊。日本海地誌調査研究会『会誌 第二二号（令和五年度）』は、敦賀に関連する地誌等の調査研究論考四点を収録。越前市は、令和五年度からの一〇年間を対象とする『越前市文化財保存活用地域計画』を刊行。真柄甚松は『日野川の合戦』をまとめた。山田雄造『勝山市の災害』は、文書・文献資料及び新聞より災害にかかわるものをまとめ一覧にしたもの。三枝正勝『鹿谷村誌』は、大正一一年当時の大野郡鹿谷尋常高等小学校教員が「鹿谷村誌」の編集に取り組んだ際の未完の手書き原稿を活性化したもの。出口陽子・山田雄造『資料紹介 斎藤甚右衛門家文書より』は、斎藤甚右衛門家文書の調査過程で著者らの興味を引いた資料について報告したもの。斎藤家は代々甚右衛門を名乗り、河合村（現勝山市北谷町河合区）で庄屋等の村役人を務めた。大野市教育委員会・大野市文化財審議委員会『奥越史料 第三七号』は、奥越に関連する論考七点を収録。たかむくのまちづくり協議会玉手箱編集委員会『たかむく玉手箱 別冊』は、坂井市丸岡町高椋地区の歴史や文化をまとめた一三年ぶりの続編。南部學・上志比勉強会

『小舟渡ものがたり』は、小舟渡橋架橋一〇〇周年記念に刊行された小冊子。南越前町『関東の遭難と村人たちの真心』は、特務艦「関東」追悼一〇〇年事業の一環として作成された写真絵本。

主な発掘報告書に『長崎遺跡』『徳光大島遺跡』『上河北江原町遺跡』『史跡白山平泉寺旧境内』『杳見遺跡』（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター）、『一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告一二』（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館）、『福井城跡二五』（福井市教育委員会）、『国史跡兜山古墳環境整備事業報告書』（鯖江市教育委員会）などがある。

二 目録・人物・地図・ガイドブック

戦国時代の越前・若狭に確かな足跡を残した武将たちの簡潔な評伝集として、福井県郷土誌懇談会は『越前・若狭 武将たちの戦国』を発刊した。和田裕弘『柴田勝家』（中央公論新社）は、信頼性の高い同時代史料を中心に事績を検証し、「悲運の名将」の実像に迫った一冊。福井市立郷土歴史博物館『越前百万石ものがたり』は、福井藩祖結城秀康の生涯を紹介した特別展の図録。加来耕三・後藤ひろみは、伝記漫画として『結城秀康』『紫式部』をポプラ社より刊行。安城市歴史資料館『三河本多一族』は、様々な系統に分かれる本多氏の中でも、丸岡藩の初代藩主本多成重の父であり、鬼作左と称されて家康に忠義を尽くした本多重次の子孫「作左衛門家」などを紹介した特別展の図録。『英訳 橋本左内『啓発録』（彩流社）は、

福井県立大学教授森英樹による新訳本で、訳者解題と英文の日本語訳を併録。坂井市『丸岡城お天守物語』は、明治から昭和にかけて丸岡城天守を守るために尽力した人々の活躍を漫画で紹介したもの。松井利夫『魯迅『藤野先生』を五倍楽しく読む本』（文芸社）は、藤野先生こと藤野厳九郎と同郷の著者が、小説『藤野先生』について多くの関連書籍をまとめつつ解説したもの。戦地への手紙を読む会『戦地への手紙』は、戦地にいる勝山市出身の兵士・嶋田嘉右衛門に届いた約四百通の手紙を翻刻しまとめたもの。森石和治・山田雄造『時をこえてよみがえる家族の手紙』は、戦地にいる勝山市出身の兵士・森石平がやりとりした手紙などの内容を読み解きまとめたもの。山田雄造・袖川源也『日支事変日誌・戦地への手紙』は、勝山市出身の兵士・袖川源語が書き残した日中戦争時の日誌をまとめたもの。大久保ヤマト『石山城主 武藤友益物語』（佐分利の歴史・文化を学ぶ会）は、戦国時代に若狭国佐分利郷を治めていた武藤友益を漫画で紹介。福井県文書館は、松平文庫「新番格以下」の一部を翻刻した『福井藩士履歴一二』を刊行。

『地名と風土 一六』（日本地名研究所）は、越前・若狭の風土と地名を特集し、県内外の研究者二〇名が寄稿した。『越美マニア』（新幹線開業に向けて越美北線を考える会）は、まちあるきの成果を盛り込んだ越美北線沿線ガイドブック。

三 各分野団体史

各分野団体史では、『武生商業閉校記念誌』、『公益社団法人福井青年会議所創立六〇周年記念誌』、『敦賀市立大学看護大学開学一〇周年記念誌』、観光ボランティアガイド「若狭の語り部」三〇周年記念『かたりべ』、中央仏教学院通信教育同窓会福井支部創立四〇周年記念誌『朋の輪ひろがれ』、永平寺町えちぜん鉄道サポート会設立ならびにえちぜん鉄道開通二〇周年を記念してまとめられた『住民がつないだ存続活動の記録』、ボランティアガイドきたまえ三國『創立三〇周年記念誌』、大野市茶道連盟和敬会設立六〇周年記念誌『和敬会六〇年の歩み』、あわら市本庄小学校『創立一五〇周年記念誌』、若狭だるま窯を守る会『一〇年のあゆみ』、美浜東小学校読書ボランティア「めめたん」この会『二〇年のあゆみ』などが刊行された。

四 宗教・経済・教育・民俗

黄霄龍『日本中世の地方社会と仏教寺院』（吉川弘文館）は、北陸地域の仏教寺院を通して、中世の地方社会の特質を検討した一冊。岩原正吉『越前「白山豊原寺」考』は、中世豊原寺の往時の姿を考察したもの。水上甚栄『蓮如上人御旧跡縁起』（響流書房）は、蓮如上人が勝山市野向町北野津又を訪れた際の逸話「蓮如上人御旧跡縁起」をもとに、上人の教えを現代文でわかりやすくまとめたもの。

若狭路文化研究所『若州管内寺社由緒記 若州管内寺社什物記』は、『若狭路文化叢書 第一九集』として刊行されたもので、小浜藩二代藩主の命によって書き上げられた二史料の影印翻刻を掲載し、巻末に杉本泰俊による解題を加えた。『加茂神社宮司谷川左近家文書』土御門家陰陽道の歴史（おおい町教育委員会）は、谷川左近家文書二二点の写真を掲載し、翻刻・解説を付したものの。巻末に、谷川家文書目録と解題を収録。『若州発光山芳春禪寺誌』（発光山芳春禪寺晋山式典実行委員会）は、『芳春寺縁起』をもとにして発刊された寺誌。

小倉祥子『地域からみる女性のライフ・キャリア』（ナカニシヤ出版）は、女性がライフ・キャリアに求めているものについて、女性就業率第一位の福井県と最下位の奈良県に住む女性の声や全国調査から分析したもの。

みなとつるが山車会館『祭りの華・つるがの山車』は、敦賀まつりで巡行する六基の山車をカラー写真と日英並記の説明文で紹介。

五 自然科学

福井県立恐竜博物館『福井県立恐竜博物館展示図録』は、令和五年七月のリニューアルオープンに合わせ、従来の「展示解説書」を内容刷新したもの。梅典雅『白山・立山花ガイド』（橋本確文堂）は、白山と立山で見られるほぼ全ての高山植物を網羅したポケットサイズの高山植物図鑑の改訂版。

六 産業・芸術・言語・文学

あめりか屋『あめりか屋 HISTORY』は、京都で生まれた建設会社の社史で、あめりか屋敦賀店の歴史にも言及している。

浅沼美忠『福井県の地域公共交通』（福井県立大学出版部）は、えちぜん鉄道と福井鉄道の再生や地域の足の確保の取り組みについて紹介。高井薫平『福井県の私鉄』（フォート・パブリッシング）は、「昭和三〇年代～五〇年代の地方私鉄を歩く 第一七巻」として刊行されたもので、京福電気鉄道福井支社と福井鉄道の二つの鉄道を紹介。いのうえこーいち『越美北線の8620、お召、七尾線のC56』（こー企画／いのうえ事務所）は、越美北線でお召列車を牽く蒸気機関車の姿などを豊富な写真で紹介した一冊。敦賀まつりで巡行する山車には、本物の甲冑を着た武者人形が飾られる。みなとつるが山車会館『みなとつるがの山車の甲冑』は、修理しながら長く使われてきた様々な甲冑を紹介するとともに、巻末には池田宏「甲冑の基礎知識」を収録。福井県陶芸館『鉄道の旅を彩ったやきもの』は、そば皿と汽車土瓶などを紹介した新幹線開業記念特別展の図録。

丸岡文化財団『日本一短い手紙「挑戦・チャレンジ」』（中央経済社）は、令和四年度一筆啓上賞入賞作品を中心に収録した一冊。越廼イメージアップ推進協議会『越廼ことば』は、越廼地区誕生七〇周年を記念し調べまとめられた方言集。

関章人『ふくいの戦後詩断章』（土曜美術社出版販売）は、著者の出会った詩人たちの詩への論考などをまとめたもの。『橋本左内

の漢詩』（縄文の会）は、橋本左内が最晩年に詠んだ二〇首を考察。

七 歴史研究施設の動向

最後に各施設の主な特別展を紹介する。県文書館は「どうする秀康」「マット・マイヤーさんのイラストで読む越前奇談怪談集」「幕末ふくい天然痘との闘い」など、県立歴史博物館は「鬼柴田」勝家の実像「武勇と統治に長けた忠義の臣」「描かれた川と人々」「越前・若狭の利水の歴史」、県立若狭歴史博物館は「近代若狭観光史」、県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館は「朝倉義景の一生」、県立美術館は「富田溪仙」越前の紙漉きを描く、県立こども歴史文化館は「地球のカケラがいっぱい」鉱物標本との出逢い、県恐竜博物館は「T H E 恐竜 in 福井」恐竜博物館を飛び出した恐竜たち、「県陶芸館は「I LOVE 釉 (YOU) in EC H I Z E N」「縄文土器」日本初のやきもの、県年縞博物館は「湖」湖底の年縞・湖畔の生業、福井市立郷土歴史博物館は「いまに残る一乗谷の記憶」「T H E 福井駅前」、敦賀市立博物館は「没後一〇〇年記念 内海吉堂」、勝山城博物館は勝山市との連携特別展「初公開 勝山の近代引札町並みをたどる」、あわら市郷土歴史資料館は「郷土のいっぴん」学芸員イチョシの館蔵品、坂井市龍翔博物館は「坂井の縄文土器 ひもとく文様のミステリー」、高浜町郷土資料館は「若狭高浜の禪宗文化」をそれぞれ開催。展示図録が作成された特別展もある。

以上、個人史、抜刷など割愛した資料や、遺漏についてはお許し
いただきたい。

（事務局 吉川千鶴）